



世田谷区立砧中学校 校長室だより
令和4年 5月23日
第 14 号
校長 大坂 崇

| | | |
|--|-----------------|--------|
| 教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる | | |
| 社会性の学び | 知的的な学び | 心と体の学び |
| 自他の尊重 地域貢献 | 主体的な学び 学習の定着 | 心身の健康 |

三重県教育委員会の資料より

SST (1)

ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)

1 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング) とは

- ソーシャル・スキル … 対人関係を営む「知識」と「技術」
- ソーシャル・スキル・トレーニング … ソーシャル・スキルを訓練すること
⇒ 精神的な治療の場で開発され、発達障害の子どもへの社会性指導に活用されてきた対人関係を高めるトレーニング法

基本的な考え方

「人とかかわる力」が育っていないのは・・・、

「スキルを学習し損ねた（未学習）」または「誤ったスキルを学習した（誤学習）」から
⇒ だから、「(他人が)教えることができる」「(生徒が)学ぶことができる」

(注) 以前は「そういう生徒」は、手がかり変えられないと考えられていた（誤解）
※教員や学校のSSTへの理解・指導スキルの向上は、生徒の将来に直接関わる

2 SSTの効果・良いところ

- 自分の中で・・・

* 「次にどうすればよいか」がわかる

暴力を振るいやすい生徒に「ダメだろ」と注意しても、さらにカッとなるだけ
だから、適切な行動を取捨選択できるように、過程を小段階に分け訓練

- みんな（学級全体・学年全体・学校全体）で行うことで・・・

* 生徒に共通のソーシャル・スキルが確立

ソーシャル・スキルをうまく使える生徒が増 ⇒ 学級・学年・学校の雰囲気が改善
いじめや自殺、問題行動の未然防止に ⇒ 生活指導の減少（教員の働き方改革にも）

* 他の生徒が「スキルを身に着けようとしている生徒」の成長を理解

カッとなりやすかった生徒が、学んだスキルを使おうと努力する場面に出会った時、
周囲の生徒が、その努力に気づく

今まで、馬鹿にしたり、冷やかしたり、知らんぷりしていた生徒が、「頑張れ」と応援
する気持ちで、その生徒を見られる

SSTやICT等のスキルを身に付けるにあたって…

「忙しくてスキルを身に付ける時間がない」という発想は、大間違い

スキル不足のためにかかる時間は、スキルを身に付ける時間よりはるかに少ない!!

(例) エクセルの技術を高めるのに4時間かかった

⇒ でも、学期末の成績処理の速度が今まで5時間かかっていたものが3時間で済むようになった
3学期合計で、 $2 \times 3 - 4 = 2$ 時間 の事務削減・・・ しかも、今後も減ったまま

(例) ソーシャル・スキル・トレーニングの指導スキル向上に10時間かかった

⇒ でも、カッとなる生徒の暴力が減少し、生活指導が減った
教員や同学級生徒の精神的なストレスやいじめ発生の未然防止を考えると、効果は10時間以上かも